

船舶事故調査報告書

平成28年12月15日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成28年2月27日 08時20分ごろ
発生場所	福山港 JFEスチール福山港新涯導灯（前灯）から真方位148° 2.3海里付近 （概位 北緯34° 25.6′ 東経133° 25.9′）
事故の概要	プレジャーボート ^{シゲ} SHIGE MARUは、南南西進中、捨て石に乗り揚げた。
事故調査の経過	平成28年9月5日、主管調査官（広島事務所）を指名原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート SHIGE MARU、5トン未満（長さ7.33m） 270-20399広島、有限会社うらべ水処理
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	船底外板に破口
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の初期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人2人（以下「同乗者」という。）を乗せ、約12～14ノットの対地速力で右舷側にある‘福山港^{みのおき}箕沖地区の岸壁’（以下「本件岸壁」という。）を約30m離して南南西進していた。</p> <p>船長は、右手で舵輪を持ちながら操船中、左後ろを振り向いて同乗者との会話に夢中になり、ふと前方を見たところ、至近に本件岸壁を認めて本船が右転していることに気付き、左舵一杯としたが、衝撃を感じて本件岸壁付近の捨て石に乗り揚げたことを知った。</p> <p>船長は、同乗者との会話中、身体を左後ろに向けていたので、無意識のうちに右手が動いて右舵を取ったのかもしれないと本事故後に思った。</p>
分析	本船は、船長が、左後ろを向いて同乗者と会話をしており、前方の見張りを適切に行っていなかったことから、本件岸壁に向け右転していることに気付かなかったものと考えられる。
原因	本事故は、船長が、左後ろを向いて同乗者と会話をしており、前方の見張りを適切に行っていなかったため、右転していることに気付かず、本船が本件岸壁付近の捨て石に乗り揚げたものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。

	・ 常時適切な見張りを行うこと。
--	------------------